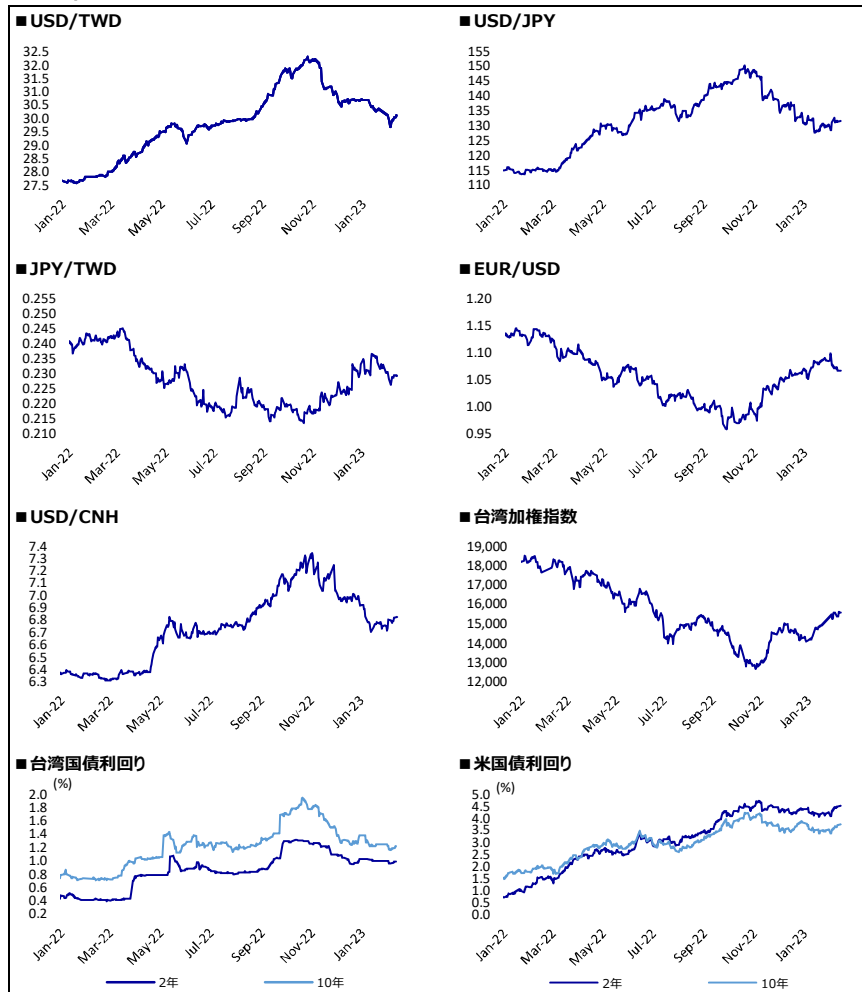


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初2/6は米雇用統計の結果を受けて29.950と上昇してオープン。輸出企業のドル売りが入ると、一時29.890まで下落したが外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となると30.00手前まで上昇。2/7は台湾株が軟調に推移する中、台湾ドル売りが優勢となり、30台に乗せた。2/8は台湾株が反発し、29.9台後半まで戻す場面も見られたが、海外投資の送金も増加し、30台で推移。2/9は一時30.1台に乗せるも、材料不足の中、レンジでの推移となった。2/10は台湾株が軟調に推移する中、外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となり、一時30.147まで上昇。最終的に先週比1.4%ドル高台湾ドル安の30.136で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は2.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初2/6は日銀の次期総裁について雨宮氏に打診との報道を受けて132.20とギャップアップしてオープン後、円売り一巡後は131円台半ばまで下落。その後は米金利の上昇により一時132.90まで上昇した。2/7は132円前半でじり安の展開となったが、パウエルFRB議長のインタビューでハト派な発言を行ったことで、市場が警戒していたタカ派な内容ではなかったため、130円台半ばまで下落。しかし、内容自体はFOMC後の会見と比較して目新しさはなく、一巡後は131円台に戻した。2/8は特段材料のない中、レンジでの推移となった。2/9は次期日銀総裁に関する観測報道で上下するも、米金利の低下を背景に130円台前半まで下落。しかし、不牙えな米国債の入札を受けて米金利が上昇すると、131円台半ばまで戻した。2/10は次期日銀総裁に植田和男氏を起用へとのヘッドラインに市場の予想外の人事案から円買いで反応し、一時129.80まで急落。しかし、その後の植田氏のインタビューで、現状では金融緩和の必要性を述べたことからドル円は上昇。また、ミシガン大消費者信頼感指数の1年先の期待インフレ率が予想を上回り、米金利が上昇したことも材料にドルは買われ、最終的に先週比0.2%ドル高円安の131.42で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.100-30.400
今週は上昇を見込む。強い米経済指標が続く中、注目の米1月CPIについて、物価上昇ベースのダウンが一旦落ち着いてしまうことに警戒したい。CPIが強い場合、株安米金利上昇によるドル高の流れとなり、春節前の水準に戻すであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.00-133.00
今週は底堅く推移すると見込む。米1月雇用統計の結果を受けて、5%台のターミナルレートが意識される中、米1月CPIの発表を控えている。予想を上回る内容であれば、ドル買い材料となり警戒したい。一方、新日銀総裁について、政策変更に関するコメント等がないが、注意したい。

今週の予定

2/13 (MON)	
2/14 (TUE)	米1月CPI
2/15 (WED)	米1月小売売上高、米1月鉱工業生産
2/16 (THU)	米1月住宅着工・許可件数、米1月PPI
2/17 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。